

議会 だより



令和6年1月19日

いいだ市議会だより

IIDACITY-gikaidayori

No.236

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

80
古紙配合率80%紙



よこね田んぼ(千代)
～日本の棚田100選・つなぐ棚田遺産～



第4回定例会…………… 2P
ズバリ市政を問う
(会派代表質問、一般質問)…… 4～7P
議員紹介…………… 12P

令和5年

第4回 定例会

11月24日
～
12月20日
開催

定例会のあらまし

第4回定例会開会日に、執行機関側から報告案件3件、人事案件2件、「飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の制定について」など条例案件8件、「土地の取得について」など一般案件15件、「令和5年度飯田市一般会計補正予算(第6号・7号)案」など予算案件11件の計39件の議案の上程がありました。

また、12月8日には、「飯田市手数料条例の一部を改正する条例の制定について」に係る条例案件1件、「公の施設の指定管理者の指定について(飯田市健康増進施設)」に係る一般案件1件、「令和5年度飯田市一般会計補正予算(第8号)案」に係る予算案件1件の計3件の議案が上程されました。

報告案件及び人事案件については、上程日の採決により確認・同意しました。その他の案件については常任委員会での審査を経て、最終日に全て原案のとおり可決しました。

議案に対する質疑と審査

報告案件、人事案件以外の議案が総務、社会文教、産業建設、予算決算の各常任委員会に付託され、集中的に審査しました。

質疑等の内容は、8ページからの各常任委員会のページでその一部を紹介します。

今定例会において、飯田創造館の閉館を契機に、南信州広域連合が広域的な文化芸術活動に取り組むための場を提供できるように、「南信州広域連合が処理する事務の変更及び南信州広域連合規約の変更について(議案第129号)」の議案が提出されました。飯田市議会では、担当する総務委員会での審査の中で、南信州広域連合副管理者に対する参考人招致、委員による議員間自由討議等により、論点を明確にし、さまざまな角度から質疑が行われました。

※質疑等の概要は、総務委員会ページ(8ページ)をご覧ください

長野県等に対し、「県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書」を提出しました

閉会日には、議員発議の追加議案として、会派代表者の連名により、「県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書(案)」を提出しました。採決の結果、原案のとおり可決し、12月20日に長野県知事及び長野県議会議長へ意見書を提出しました。

【県施設の整理統合が続く中で、地域の振興に資する施設整備等を求める意見書】

リニア中央新幹線の開業を見据え、県土の均衡ある発展を実現し、将来に向けて、この地域が明るい希望を持てるよう、地域の振興に資する施設の整備等を検討されたい。

意見書の詳細内容は、こちら



【意見書提出理由(要旨)】

10年以上に亘る(仮称)南信運輸免許センター設置に向けての過程のなか、その時々で多くの郡市民が思い起こしたのが「北高南低」という言葉ではないか。過去の県議会一般質問での答弁からは、阿部知事もこの「北高南低」については認識していることがうかがえる。免許センター設置に伴う飯田創造館閉館問題を機に、県土の均衡ある発展の観点から、県にはこの「北高南低」という概念が払拭されるような対応を求めているかなくてはならない。そして、それを実現する絶好の機会が、リニア中央新幹線の開業に向けての取り組みではないかと考える。一昨年10月に、飯田警察署と運輸免許センターの併設に伴い創造館閉館の方針が示された際に知事は、「これからのリニア時代に向け、南信州地域の発展のため、住民の皆様へ寄り添った対応をしていきたい。」といった主旨の発言をされている。リニア効果を、小規模自治体の多い飯田下伊那地域発展の千載一遇の機会として最大限に生かすためにも、是非ともこの発言が現実のものとなるよう切に望む。県を構成する各市町村の住民を代表する議会は、要望活動の先頭に立つことが求められており、改めて「次世代の郡市民の皆様が『北高南低』」という言葉を思い起こさなくてはならない。」との思いから、飯田市議会として長野県並びに長野県議会に対して意見書を提出したい。

「議会報告・意見交換会」に多くの
ご参加をいただきありがとうございました

各地区まちづくり委員会の皆様のご理解とご協力により、令和5年度の議会報告・意見交換会を盛会に開催することができました。誠にありがとうございました。

10月3日(火)から13日(金)までの間に、市内11会場で開催した議会報告・意見交換会には、610人の皆様にご参加いただき、1065件のご意見・要望等をいただくことができました。

皆様からいただいた貴重なご意見等は、左表のとおり分類し、「調査・研究(問題分析)を行うもの」「予算審議等を通して扱うもの」とした項目については、各常任委員会で調査研究を進め、来年度の議会報告・意見交換会において報告をさせていただきます。

実施後のアンケート結果からは、参加いただいた皆様の方から、開催したことの評価をいただきました。

来年度も有意義な会となるように工夫をしてまいります。

1,065件の意見・要望等の分類

委員会として調査・研究(問題分析)を行うもの	848件
予算審議等を通して扱うもの	1件
早急に回答を要するもの	29件
年度内に回答を行うもの	12件
市へ伝えておくべきもの	66件
その他(市議会として聞き置くこととするもの)	109件

議会改革推進会議が管外視察を実施(10月23日)

議会改革推進会議は、昨年度に全議員で取り組んだ「地方議会評価モデル」から抽出した取り組むべき課題の議論を本格的に始めるにあたって、県外の先進地として愛知県の犬山市議会を視察しました。

視察先では、①定例会において、数名の公募市民が議場で市政に関する提案を行い、それを市民からの提案として議会審議に生かす「市民フリースピーチ制度」、②女性を対象にして現職女性議員がサポートし、学習会を経ての執行機関に対する質問の作成、現職議員との意見交換などを行う「女性議会」、③犬山市議会議会基本条例が規定する「議員間討議」に本格的に取り組んだ経緯についての説明を受け、意見交換を行いました。



○(愛知県 犬山市議会)
市民フリースピーチ制度・女性議会・議員間討議



議会運営委員会が管外視察を実施(10月26日から27日まで)



大町市議会にて

会津若松市議会にて



新潟市議会にて



議会運営委員会は、議長から諮問を受けて導入の検討を進めている「委員会代表質問」と「議会日程の最適化」に加え、昨年度実施した地方議会評価モデルから浮かび上がった課題である「主権者教育」についての知見を得るため、県内外の先進地を視察しました。

視察先では、議員同士の活発な議論を通して多くの示唆を得ることができ、当委員会から議長への12月の答申に向けて、積極的に調査研究を進めました。

- (長野県 大町市議会) 委員会代表質問の実践
- (福島県 会津若松市議会) 会津若松市議会と飯田市議会の議会日程の最適化に関する意見交換
- (新潟県 新潟市議会) 中学生と高校生を対象とした主権者教育の実践

会派代表質問 4～5ページ

各会派を代表して一人が市政全般について質問します。会派の意見を次年度の予算に反映させやすいよう、飯田市議会では、12月（第4回定例会）に会派代表質問を行っています。

一般質問 6～7ページ

市政全般にわたり、市長をはじめとする執行機関側に、事業の執行状況、将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第4回定例会では、7人の議員が質問しました。



ズバリ 市政を問う

第4回定例会の会派代表質問と一般質問の概要を紹介します。

- ▶ 質問順に掲載
- ▶ 末尾の■は、他の質問項目
- ▶ 質問の様子は、YouTubeで動画配信しています



将来に向けて、行政としての振り返りの必要性和若い人や未来からの視点を生かす重要性



代表質問 新政いいだ

山崎 昌 伸 議員

Q コロナ禍の経験や教訓を次に生かすため、全部署の取り組みを詳細に分析した上で記録を残すことが重要では。

A 効果の検証ができていないかと言えば、できていないのが現状である。重要な指摘であり、次に何かが起こったときのために、実施したコロナへの対応が有効に機能したか、機能しなかったかという記録は残しておく必要がある。今年度中に一定のとりまとめをして記録を残したい。

Q 高校生の提案を生かし、若い人や未来からの視点を採り入れて「気候市民会議」の開催に取り組むべき。

A 令和3年3月に、当時の総務委員会から「市民全体で環境文化都市の認識を共有する場を」との提言を受け、「南信州環境メッセ」で実験的に運用を始めた。今年度の環境メッセの中で行った「うごくる。」は、飯田女子高校の生徒の企画運営により開催され、この成果が市長への提言につながったことは、市民意識の醸成の面で一つの理想形と言える。「気候市民会議」も、さらに多くの市民参加を得て効果的に展開できるように、検討を進めていきたい。



将来を見据えた飯田市の総合政策について ～総合計画中期4年の最終年・令和6年度予算の考え方～



代表質問 会派きぼう

福澤 克 憲 議員

Q 自治基本条例が施行され16年が経過した。飯田市の目指す「地域自治の姿」を市長はどのように描くか。

A 役員の担い手不足など地域コミュニティの維持が難しくなっている中、負担軽減策や事業の見直しが行われているが、単に事業を減らすという考えではない。自治とは何か、役割とは何か、基本に立ち返って共に学び直す取り組みを、来年度行っていきたい。

Q ワーク・ライフ・バランスの推進のため、飯田市独自の認定制度やその優遇措置についての検討状況は。

A 飯田下伊那地域の事業者におけるワーク・ライフ・バランス関連の認定取得状況は、国の3件に比べ、県は16件と多く、制度がわかりやすい県の認証を取得する事業所が拡大している。飯田市独自の支援策として、国・県の認定を得た事業所に対する制度資金や利子補給制度を導入することで、地域の事業者の皆さんのワーク・ライフ・バランスの取組推進を図っていきたい。

■ リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の開通を見据えたまちづくりについて

■ 環境に配慮したまちづくりについて

■ 安全・安心なまちづくりについて

代表質問 会派みらい



井坪 隆 議員

未来に向けて市政は変わったか
～市長の公約をチェックする～

Q 「こうしたいので市民の皆さんにこう協力してほしい」という市長の強いメッセージが不足している。

A 環境をひとつの軸として、飯田市を誇れるまちにしていく。「新・環境文化都市」を目指していく。そして「日本一住みたいまち」の実現には、市民の自己肯定感（シビックプライド）が不可欠となる。市民の皆さんには、「飯田には何もない」という言い方をしないでもらいたい。これが市民の皆さんに協力してほしいことである。

Q 「大学のあるまち」を目指すとしている。推進を望むが大学を取り巻く厳しい現実の中で実現は可能か。

A 信州大学が進める水分野での研究等で、大学との連携を強化し、新たな産業創出の芽を育てるとともに、企業誘致や研究機関の誘致につなげていく。研究者と学生が増え、大学院、研究機関という形でキャンパスが拡大していくという道筋の中で、「大学のあるまち」を目指す。

■市長の公約について

■飯田市総合計画「いいだ未来デザイン2028」の推進について

■地域自治と行政の在り方について



代表質問 公明党



宮脇 邦彦 議員

経済と生活の再生をめざす来年度予算編成について
～地域内経済循環と人材への投資～

Q 経済と生活を結ぶツールとして地域内経済循環は欠かせないが、どう進めるか。

A 地域通貨には、地域内経済循環の手段となる「地域マネー」と、コミュニティ活性化の手段となる「地域ポイント」の2つの役割がある。産業経済部では、「地域マネー」を切り口に研究会を立ち上げ、検討を進めてきた。「地域ポイント」は、市民の地域活動への参加促進ツールとして期待ができ、研究を進めていく。

Q 暮らしを支える社会基盤強化へ「人材への投資」をどう考え進めるのか。

A 産業界の人材不足に対し、各高校が行う探求学習など学生が建設業への理解を深める取り組みへの支援をはじめ、業務の効率化や生産性の向上などあらゆる切り口から人材不足への対応が必要と考える。また、多様な働き方や柔軟な働き方ができる地域社会の促進で、女性の活躍を進めていきたい。

■誰もが安心して暮らせる社会の構築に向けて
■子どもを産み育てやすい環境の充実について
■暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり



代表質問 日本共産党



市瀬 芳明 議員

未来に明るい展望と、飯田市に人を引き付ける魅力を
～いいだ未来デザイン2028の実現に向けて～

Q ゴみの減量が課題との認識を持つが、エシカル消費、フードロスをなくす取り組みをどのように考えるか

A 一人一人の取り組みが非常に大切になる。家庭・職場・学校、様々な場面で取り組めるので、みんなで取り組んでいきたい。地元の商品を購入する、産地にこだわる、必要なものが必要なだけ買う、手前取りなど色々なアプローチがある。それを市民運動としてみんなで取り組むことが大事である。

Q 飯田の地形を活かした観光について、ユニバーサルツーリズム・サイクルツーリズムをどう考えるか。

A これからの時代、ユニバーサルツーリズムへの対応は必要不可欠である。障がい者の皆さんの外出機会の確保・提供、あるいは社会参加を促すという意味で、当地でもしっかりと進めていく必要がある。サイクルツーリズムは、長野県も力を入れて取り組むということで、県の動きと連携をしながら進めたい。TOJ信州飯田ステージの開催地である強みを生かして市でも環境整備を進め、将来的にはこのコースを活用した地元主催のレース等を地元の皆さんと一緒に考えていきたい。



3歳未満児の「育休退園」について

清水 優一郎 議員(新政いいだ)



Q 「育休退園」について、3歳以上児は認定こども園化によって解消したが、3歳未満児については、制度としてまだ残っている。入所者が増えるため、保育人材の確保という課題はあるが、「育休退園」については、ぜひ解消したいと考える。

A 令和5年度議会による行政評価からの評価及び提言書「基本目標9」の評価について

Q 「出産・子育ての希望に寄り添うまち」として早急に改善できないか。

A 「育休退園」について、3歳以上児は認定こども園化によって解消したが、3歳未満児については、制度としてまだ残っている。入所者が増えるため、保育人材の確保という課題はあるが、「育休退園」については、ぜひ解消したいと考える。

市長提案の令和6年度予算編成基本方針について

古川 仁 議員(日本共産党)



Q 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とあるが、具体的にどのような支援を考えているか。

A 令和4年度から「結婚新生活支援事業」として、婚姻した世帯の新生活を経済的に支援し、定住を促進するために補助金を交付している。妊娠中のサポートとしては、母子手帳交付時から全妊婦の面接を実施すると共に、個別の支援プログラムを確立し、継続的な相談等を実施している。妊娠時と出産後に5万円ずつ給付する「出産子育て応援事業」を今年度から開始した。

Q 「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」とあるが、具体的にどのような支援を考えているか。

A 令和4年度から「結婚新生活支援事業」として、婚姻した世帯の新生活を経済的に支援し、定住を促進するために補助金を交付している。妊娠中のサポートとしては、母子手帳交付時から全妊婦の面接を実施すると共に、個別の支援プログラムを確立し、継続的な相談等を実施している。妊娠時と出産後に5万円ずつ給付する「出産子育て応援事業」を今年度から開始した。

喫煙環境の変化に伴う公共施設での喫煙の考え方は

小林 真一 議員(公明党)



Q リニア駅前空間の喫煙について、訪日外国人への喫煙ルールの周知、景観への配慮、防災面などの考え方は。

A 駅という性質上、子どもから高齢者、インバウンドによる海外からの来訪者など様々な方の訪問、利用が想定される。喫煙場所を設置した場合には、設置方法や設置場所の検討が必要であり、駅前空間の多様な利用者により配慮した分煙環境を整える必要がある。建築物の設計と並行して検討するが、安全性や駅前空間のデザイン等にも配慮していく。

Q リニア駅前空間の喫煙について、訪日外国人への喫煙ルールの周知、景観への配慮、防災面などの考え方は。

A 駅という性質上、子どもから高齢者、インバウンドによる海外からの来訪者など様々な方の訪問、利用が想定される。喫煙場所を設置した場合には、設置方法や設置場所の検討が必要であり、駅前空間の多様な利用者により配慮した分煙環境を整える必要がある。建築物の設計と並行して検討するが、安全性や駅前空間のデザイン等にも配慮していく。

不登校児童・生徒への対応について

岡田 倫英 議員(会派きぼう)



Q 民間の協力を得ながら「子どもの第三の居場所」の受け皿を増やしていく必要があると考えるがどうか。

A 不登校児童生徒の社会的自立を目指す上で、体験活動は重要な取り組みであると認識しており、体験活動の場を充実・拡大させていく必要がある。中学生の職場体験を受け入れていただいている事業所に、今後、別枠で不登校児童生徒の体験活動を受け入れていただけるとかどうか、可能性を探っていく考えでいる。

Q 民間の協力を得ながら「子どもの第三の居場所」の受け皿を増やしていく必要があると考えるがどうか。

A 不登校児童生徒の社会的自立を目指す上で、体験活動は重要な取り組みであると認識しており、体験活動の場を充実・拡大させていく必要がある。中学生の職場体験を受け入れていただいている事業所に、今後、別枠で不登校児童生徒の体験活動を受け入れていただけるとかどうか、可能性を探っていく考えでいる。

管理不全な空き地への対応は

永井 一英 議員(公明党)



Q 管理不全な空き家への対応に明らか、所有者不明又は判明しても連絡がつかない管理不全な空き地に対応すべきでは。

A 人口減少や高齢化の進行により、所有者が不明な土地や管理不全な空き地の増加が見込まれ、何らかの対策が必要になる。今後の国の動向や全国の自治体の状況を踏まえ、宅地建物取引業者などの専門分野の方々の意見も伺って対策を考えていきたい。条例制定の必要性を含め、現状を把握した上で判断していきたい。

Q 管理不全な空き家への対応に明らか、所有者不明又は判明しても連絡がつかない管理不全な空き地に対応すべきでは。

A 人口減少や高齢化の進行により、所有者が不明な土地や管理不全な空き地の増加が見込まれ、何らかの対策が必要になる。今後の国の動向や全国の自治体の状況を踏まえ、宅地建物取引業者などの専門分野の方々の意見も伺って対策を考えていきたい。条例制定の必要性を含め、現状を把握した上で判断していきたい。

第8次医療計画及び地域医療構想策定について

西森 六三 議員(会派きぼう)



Q 2次医療圏域における地域医療支援病院の飯田市立病院に課せられる役割は。

A 当院は、第一線で地域医療を担う「かかりつけ医」等を支援する役割の病院として、外来診療については紹介制を原則としている。また、医師が不足する地域内の病院等へ医師の派遣を行うなど圏域内の支援も行っている。医師の確保に苦慮しながらも、診療科維持に必要な人員は、信州大学と連携して確保に努めている。

Q 2次医療圏域における地域医療支援病院の飯田市立病院に課せられる役割は。

A 当院は、第一線で地域医療を担う「かかりつけ医」等を支援する役割の病院として、外来診療については紹介制を原則としている。また、医師が不足する地域内の病院等へ医師の派遣を行うなど圏域内の支援も行っている。医師の確保に苦慮しながらも、診療科維持に必要な人員は、信州大学と連携して確保に努めている。

市議会の傍聴に関して

* 毎回多くの市民の皆さまに市議会を傍聴いただき、ありがとうございます。

団体での傍聴を希望される際には、事前に議会事務局までご連絡をお願いします。

* 一般質問をはじめとした本会議や委員会は、動画配信サイトYouTubeでライブ配信するとともに、アップロードもしております。ぜひ、ご視聴ください。



委員会中継



本会議中継

市長提案の令和6年度 予算編成基本方針について



原 和 世 議員(会派みらい)

A グラウンドの芝生化については、関係団体との協議を踏まえ、飯田運動公園多目的運動場を候補として検討を進めている。候補施設は、野球・ソフトボールなどの利用があるため、複数競技で共用可能な整備を想定している。令和10年の国民スポーツ大会の開催を見据えて、施設の設置者である県との協議を進め、整備時期を見極めていく。

Q 若者の育成や地域の活力にスポーツは寄与すると思うが、サッカー・ラグビーグラウンドの芝生化は。

林業活性化推進飯田市議員連盟 飯田市育樹祭に参加



作業後の参加議員



熊谷議長あいさつ(開会式)

林業活性化推進飯田市議員連盟(会長木下徳康)のうち12名が11月4日に座光寺財産区を会場に開催された飯田市育樹祭に参加。座光寺財産区管理組合の方々の案内で山林に分け入り、飯伊森林組合の方々の指導のもと間伐体験や伐採作業の見学をしました。水源、治山、CO₂吸収源として重要な森林保全の大切さを実感しました。

「議員連盟」の活動紹介

※議員が自主的に結成し活動

飯田市議会スポーツ振興議員連盟 管内視察を実施

飯田市議会スポーツ振興議員連盟(会長岡田倫英)では、幹事6名が11月16日に管内視察を行いました。

教育委員会生涯学習・スポーツ課から説明を受け、天龍峡テニスコートでは夜間照明施設の整備計画、桐林屋根付多目的グラウンドでは照明LED化と屋外トイレの改修、武道館では屋根・外壁改修の計画とトイレの改修状況を確認。飯田運動公園ではスケートボードパークIIDAの現状を確認しました。飯田市教育委員会施設等総合管理計画に基づく施設改修の進行状況を主に置きましたが、日常的な利便性を改めて確認する機会にもなりました。



桐林屋根付
多目的グラウンド



スケートボードパーク
IIDA

総務委員会

12月8日と11日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください

南信州広域連合が処理する事務の変更及び南信州広域連合規約の変更について（議案第126号）

本議案の審査に先立ち、12月8日に自律的な委員会を開催し、南信州広域連合の高田副管理者を参考人として招致を行うことを決定。執行機関側への質疑に引き続き、参考人を招致してから質疑を行いました。

Q 飯田市議会全員協議会では飯田創造館の閉館に伴う対応であるとの説明があり、南信州広域連合からは新たな文化芸術活動支援施設は代替施設ではないとの説明があった。わかりにくいという声もあるがどうか。

A 飯田創造館は県が設置し運営してきた施設。県、南信州広域連合、市町村はそれぞれの立場で文化行政を担っており、当該施設の廃止により南信州広域連合や市町村が代替施設を設置することにはならない。

ただし、現実として当該施設が閉館になるので、この地域で文化芸術活動をしていく方々のために、南信州広域連合という立場で新たな場を提供する。



閉館となる飯田創造館

■12月8日に、飯田創造館と、新たな文化芸術活動支援施設となる南信州広域連合事務センター等を全委員で現地視察したことを踏まえ、質疑の途中で委員長から議員間自由討議を決議し、実施しました。



議員間自由討議の中で、委員から「当委員会としては、南信州広域連合から県に対し、県が引き続き、文化芸術の振興を進めるよう求めてほしい。また、施設の改修と運営に必要な費用に関し、県に対して応分の負担を求めざるべきである」という要望の意見が出されました。

飯田市部等設置条例の一部を改正する条例の制定について（議案第98号）

本議案は、社会文教委員会の所管に係る案件であり、適正な議案審査の観点から当委員会と社会文教委員会との連合審査を行いました。

Q 今回の組織改編により体制が変わった場合、各課の連携はどのように行うか。

A 保健師は妊娠期から地区で担当業務を行っており、どの部に所属しても、福祉課や長寿支援課がサポートするため、さほど影響はない。地域コミュニティの中でどうやって福祉を推進するのは新たな福祉部にとって大きなテーマである。重層的支援を一つのコアにしながらか、今後各課の連携の仕方を考えたい。



《予算決算委員会 総務分科会》
議案第130号 令和5年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案について

2款 物価高騰対策生活支援金事業費に関して

Q 支給額1万円のうち、水道料金値上げの軽減策相当分はいくらか。

A 総務省の家計報告調査で、今年と2年前程度を比較した場合に、約7千円から9千円程度の負担増というデータがあった。加えて水道料金の負担軽減の話があり、平均3か月で2千円程度、6か月で4千円程度の値上げの影響があることを踏まえて合計で1万円とした。家庭によって使用状況は異なるため、水道料金値上げの軽減策相当分を明示することはできない。

■質疑の途中で、委員から議員間自由討議の発議があり、議案審査の充実の観点から実施しました。

議員間自由討議の中で、委員から「国庫支出金を子育て支援策として給食費に充ててはどうか、また水道料金の値上げは予定通り令和6年1月から行うが、値上げ負担相当額を水道事業会計に繰り入れて値上げ相当分の徴収を遅らせてはどうか」との意見がありました。これに対し、委員から「6月の議決を反故（ほご）にすることとなり、条例改正案、修正予算案を備える必要がある」、さらに別の委員から「6月に当市議会として附帯決議を行った経緯をふまえ、市民に対し1世帯あたり1万円の支給をいかに早く届けるかが重要である」との意見がありました。

社会文教委員会

12月12日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

公の施設の指定管理者の指定について
(飯田市健康増進施設) (議案第132号)

Q 市はどのような判断のもと、今回の施設改修等の投資を判断したか。

A 市として、公の施設を今後も維持していく方針のもと、施設の不具合を整備するために、指定管理施設として、維持・継続できるかを指定管理者と協議し、経営診断による客観的な事実をもって、今後も維持・継続すると判断した。

Q この施設の開設当時、相当数の議員から施設経営を不安視する声があった。施設の老朽化、新型コロナウイルスの影響等で経営状況が悪化したことも理解できるが、将来的な経営計画、経営に対する厳しい目を市側がしっかりと持っている必要があるが、どう考えるか。

この施設の開設当時、相当数の議員から施設経営を不安視する声があった。施設の老朽化、新型コロナウイルスの影響等で経営状況が悪化したことも理解できるが、将来的な経営計画、経営に対する厳しい目を市側がしっかりと持っている必要があるが、どう考えるか。



飯田市健康増進施設「ほっ湯アップル」

A 施設開設当時の議会での議論も承知している。もともと、し尿処理施設設置への地域貢献に対するお礼を含めての施設であったが、そうした経過を越えて、市の財産として位置づけ、利用者層の拡大も含め、しっかりとした経営計画を持っていることが必要であり、そこは市が責任を持つていく。

陳情審査について

令和5年 陳情第5号

飯田市立病院の基本理念「私
たちは、地域の皆さんの健康
を支え、信頼される医療を
実践します」に基づき、また
本方針にある「安全・安心で
良好な医療を提供します」に
従い、安全安心で信頼され
病院の運営を願う

(陳情者)
飯田市内在住
吉川 秋利 氏

審査結果：趣旨採択

この陳情は、第3回定例会で「継続審査」としました。その際、「閉会中の継続審査の申出」を行い、今回の審査の間に、市立病院事務局への聞き取り、現地確認などの調査を行いました。今回の審査では、複数の委員から「趣旨採択」が妥当とする意見がありました。

要望書の要旨

陳情の採決の直後に、委員から、飯田市立病院に対し「飯田市立病院の基本理念を實踐するために一層の改善を求める要望書」を提出したいとする動議がありました。

要望内容については、委員会活動の中で、委員間で方向性を共有した事項であったため、全会一致で採択いたしました。

(要望書の要旨)

- 患者からの満足度が上がる取り組みを目標値にこだわらず積極的に進められたい。「とても不満」との意見があることについて、解消に向け具体的に取組まれたい。
- 外来患者の満足度が低い。「待ち時間の短縮」「痛みや症状を和らげる対応」等への取組みを組織的・計画的に進められたい。

所管事務調査に関わる政策提案について

当委員会は、「飯田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について」を所管事務調査として、調査研究活動を行ってきました。議会報告・意見交換会では、委員と市民の皆さんが、まさに膝を交えた意見交換を行いました。また介護事業所の現場へも出向き、人材確保面等の課題で意見交換を行ってきました。

これらの委員会活動から、政策提案として15項目に整理し、12月21日に副市長立会いの下、担当の健康福祉部長へ提案書を手交しました。提案への対応等は令和6年度当初予算の審査において確認します。



産業建設委員会

12月13日に
委員会等を開催



委員会の様子は
YouTubeを
ご覧ください。

公の施設の指定管理者の指定について（飯田市天龍峡温泉交流館）（議案第113号）

Q 令和3年度と4年度を比較すると、収入が増える一方で収支が減少している原因は。

A 利用者が増え収入が増加しているが、働きの確保が必要であり、最低賃金も上昇する中で人件費が増加している。また、物価高騰によるコストの増加も影響している。

Q 選定理由に独自の企画が実施されているとあるが、これまで、どのような独自の企画が行われてきたか。

A ご湯づくり市、集いの広場を活用した子育て支援事業、絵本図書館の開設、商いBOXなど、多彩な企画が行われている。

Q 事業収支（収支の妥当性）の記載の中で、黒字化を目指す計画が示されていることを評価しているが、具体的には何か。

A 食堂部門など部門別に収益をあげるとともに、施設の周辺の活用も含め、収益を上げていくことが示されている。



Q 日帰り温泉の利用料金が500円だが、物価高騰により経費が増加する中で金額の妥当性について検討されているか。

A 利用料金については、指定管理者と周辺の温浴施設に比べて割安の料金設定となっており、今後研究事項にすることを共有している。



飯田市天龍峡温泉交流館 外観



食堂



浴場

工事請負契約の締結について（土木施設補助災害復旧事業道路災害復旧工事）（議案第115号）

Q 令和5年6月の豪雨では、市道の他、林道赤石線など多重災害となっているが、復旧の全体像をどのように考えているか。

A のり面が崩落した現場は、被災箇所の中で最も上部に位置しているため、最優先で対応する必要がある。市道を復旧後、林道等については県と連携して対応していく。

《予算決算委員会 産業建設分科会》
議案第119号一般会計補正予算（第6号案）

Q 南信濃中橋の橋りょう架設工事について、令和4年第1回定例会において、工事期間を短くするために工法を変更したことで増額補正となったが、今回、工期が延び、さらに工事費も増額となっている。第1回定例会で補正予算を提出した時点で、計画された工程表から遅れが生じていることを把握できたのではないか。

A 補正予算を提出した時点で、工事の進捗については、計画通りの進捗が望めていないことは把握していたが、第2濁水期中に橋台を設置する方向で、工程表通りに進めるように業者とは調整をしていた。

Q 契約が2回変更されるとともに、工事費が当初計画の約2倍になったことは異例であり、発注者の責任は重い。工期が延びて、工事費も約2倍になると分かった時点で、工事を一旦リセットすることを考えなかったか。

A 災害復旧事業として国と協議を行い、災害査定で認められている工法で早期復旧に向けて取り組んでいる。現状、計画通り進捗していない状況だが、請負業者と工程の見直しを行い、確実に見直した工程に沿って工事を進めていくことを確認している。今後もお互いに進捗を確認し連携を図ることで、令和7年3月完成に向けて進めていく。

リニア推進 特別委員会

12月14日に
委員会を開催



委員会の様子は
YouTube動画を
ご覧ください

「広域的なアクセス・広場活用検討会議 合同全体会」について

11月16日に開催された、飯田市や長野県をはじめ、上伊那地域も含めた自治体や民間団体等の参画による「広域的なアクセス・広場活用検討会議合同全体会」について報告がありました。

主な内容は次のとおりです。

■設立の趣旨

リニア中央新幹線の整備効果を広域的に波及させ、南信州や上伊那地域が持つ魅力を、どう大都市圏に発信し、来訪者をいざない、地域振興に活かすかを検討するとともに、情報共有の場として設置する。

二次交通をはじめとする交通関係の検討を行う「リニア駅アクセス検討会議」と、魅力発信や駅前広場の利活用の検討を行う「リニア駅前広場活用検討会議」の2つの会議を、長野県と共同で開催していく。

■「リニア駅アクセス検討会議」について

飯田市での交通体系の検討状況を報告しながら、広域的な二次交通や、円滑な地域公共交通体系、*Maas(マース)等の交通シス

テム、自動運転、新たなモビリティへの対応といった5つの検討要素について、分科会での検討や研究を行い、全体で共有を図っていく。

*Maasとは、公共交通を含めた、自家用車以外の全ての交通手段による移動を1つのサービスとして捉え、出発地から目的地までの移動を最適に組み合わせて検索・予約・決裁等を一括で行うことにより利便性の向上を図るもの。

■「リニア駅前広場活用検討会議」について

飯田市での駅前広場の検討状況を報告しながら、高架下の観光案内、情報発信、イベント、地域の魅力発信、定住促進の5つの検討要素について、分科会での検討や研究を行い、全体で共有を図っていく。

■各検討会議の検討スケジュール

令和7年度を目的に検討を進める。リニア駅周辺整備事業へ反映させる必要があるものについては、飯田市が設置しているプロジェクトと共有し、検討を行いながら事業の進捗を図る。

Q 上郷北条地区からは、駅周辺はコンパクトな開発にしてほしいという意見があり、飯田市として2つの中心市街地をつくら

ないというのがこれまでの基本的な考えである。会議での発言には、一般的な駅周辺の開発による賑わいを想定しているような発言がある。これまでの考え方を明確に伝えるべきではないか。

A 飯田市がこれまで積み上げてきた考え方や、北条地区の考え方は、関係者と共有して対応していきたい。

管内視察を11月10日に実施しました

リニア推進特別委員会では、現在進められているリニア中央新幹線工事の進捗状況を確認するため、以下の3箇所視察を実施しました。

視察箇所

- ①下久堅(小林) 発生土置場
- ②喬木村 天竜川橋りょう
- ③上郷 リニア駅予定地



盛土を抑える補強土壁の建設の様子(下久堅)



橋脚部建設の様子(喬木村)



～かわいい家族紹介～

しみず いさむ
清水 勇

新春を迎えいかがお過ごしでしょうか。家族は妻と私とミント(チワワ、2011年1月20日生まれ、雌12歳)2人と1匹です。妻から見ると1番ミント、私は2番、食事の時は私の膝で食べ物をおねだりして一緒にいます。家に帰ると車の音でわかるのか玄関に来て待っていてくれます。散歩は妻が私が行きますが寒い日はリードを見せるとケージに入ってしまう行きません。大事な家族の一員で癒しになり無くてはならない存在です。高齢になりますが少しでも長く一緒に住めることを願います。



私も年男です。一日一日を大切に一年充実した生活をしたいと思います。



～こころざし～

なが い かず ひで
永井 一英

以前このコラムに、ぶらり旅が趣味だと言った。この何年かの私的な旅は、歴史探訪になってきた。

元々日本の歴史は好きだ。母が、NHK大河ドラマをずっと見ていたことに影響されたのかもしれない。奥州藤原氏、伊達政宗、原田甲斐、斎藤道三、坂本龍馬、高杉晋作、毛利元就、黒田官兵衛等々。

学生時代には親友と、青葉城、稲葉山城に登り、京都の寺田屋に宿泊した。昨年は思い立って、越前松平家の居城福井城址を訪ね、松平春嶽に思いを馳せた。しかし第一の目的は、龍馬が暗殺される二週間前に、明治新政府の人材発掘のため再訪し、渡ったであろう今の九十九橋を渡り、蓑屋旅館跡に立ちみたかった。長崎の丸山町花月や亀山社中跡、下関の功山寺に立っても、先人の熱い志に触れる旅は面白くワクワクする。

議会の動き(予定)

■第1回定例会

2月27日(火)～3月22日(金)

◇一般質問 (傍聴可能)

3月12日(火)、13日(水)

◇委員会日程 (傍聴可能)

予算決算委員会前期全体会	2月27日(火)
総務委員会	3月4日(月)、5日(火)
社会文教委員会	3月5日(火)、6日(水)
産業建設委員会	3月6日(水)、7日(木)
リニア推進特別委員会	3月11日(月)
予算決算委員会後期全体会	3月21日(木)

■議会への請願・陳情は、議会事務局へ

2月13日(火)午後5時までにご提出ください。

議会傍聴に際してのお願い

議場や委員会室に入る場合は、帽子、外とう、襟巻を着用し、又はつえ、傘の類は携帯してはならないことになっています。(病気その他の理由により議長の許可を得たときは例外となりますので議会事務局職員にお申し出ください。)ご理解とご協力をお願いいたします。

広報広聴委員会

委員長/岡田 倫 英 副委員長/山崎 昌 伸
委員/小平 彰 橋爪 重人 西森 六三
宮脇 邦彦 関島 百合 市瀬 芳明

表紙紹介

がんばっとるに!! 千代

よこね田んぼの雄大な景色は、四季折々に変化して訪れる人々の心を癒してくれます。約110枚(約3ha)の棚田が階段状に広がる絶景は、じゃらん(東海)2023年10月号に紹介されました。

今年度は、保全委員会設立25周年記念事業として、例年の案山子コンテストに加えクイズラリーを8月に行いました。現在は、散策マップの作製に取り組んでいます。棚田オーナー制度には38組の登録があり、地区内外の交流もできました。

保全活動には多くの方々の労力が必要になります。高齢化が進む厳しい状況の中、先人たちが知恵と苦労を重ねて築いてきた千代の財産を後世へつなげていけるよう工夫しながら活動を継続しています。

